

# 音楽科 学習指導案（5年3組）

令和3年11月16日（火）第5校時（第1音楽室）指導者

## 授業改善の視点

表現の工夫を追究する場面において、旋律の動きと楽器の特徴及びパートの役割との関わりをもとにした工夫を実際に試し合い、相互評価をうけて再度試し合わせることで、児童はどのように演奏するかについて、思いや意図を膨らませることができるであろう。

1 題材名 曲想の変化を味わおう

教材名 器楽教材「きらきらぼし」「ゆかいに歩けば」「キリマンジャロ」 鑑賞教材「威風堂々」

## 2 目標

- (1) 曲想と、音楽の構造との関わりなどについて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
- (2) 曲想と、旋律、強弱、リズムなどとの関わりが生み出すよさや、旋律の動きと楽器の特徴及びパートの役割を考え、曲想に合う表現の工夫をし、どのような演奏をするかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲想やその変化、曲の構成に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に取り組んでいる。

## 3 学びのつながり

東連携型小中一貫校の指導の重点

○音楽表現の工夫をする。

○音楽のよさを味わって聴く。

【これまでの学び】

【ここでの学び】

ここでは、曲想と、それぞれの音楽を形づくっている要素（音楽の特徴）や楽器の特徴やその役割との関わり合いを視점에、曲想やその変化に合わせて、思いや意図をもって表現の工夫を追究していくことを目標としていく。そのため、曲想の変化と音楽を形づくっている要素がどのように関わっているのか、響きが変わっていくと聴き手にどのようなよさがあるのかを効果的に味わわせたい。そこで、教材の導入時には、曲想から情景を予想させ、曲想と作り手が表したいものとそのための音楽的工夫のつながりの深さを体得できるようにする。

表現活動では、作り手が表したいもの（情景）とそのための工夫（「曲のポイント」）との関わりを視점에、どのような表現を目指していくか思いをもたせていく。さらに、曲想や情景、「曲のポイント」、自分たちの思いにふさわしい楽器を選択させることで、思いや意図をより具現化できるようにする。本時では、旋律の動きと楽器の特徴及び役割の関わりをもとにして、思いや意図をもって表現の工夫を追究していくことをねらいとしている。そこで、これまでの学びを各々が自らの見方・考え方として工夫を考えたり、試したりできるよう、前教材から扱ってきた「曲のポイント（なめらか、はずむ、盛り上がり・曲の山、まとまり）」を、旋律の動きから捉え、児童の表現の工夫の視点にしていく。工夫の視点を焦点化することは、自分たちの工夫の効果を感じたり、相互評価の際の視点を定めたりできる利点もあるため、互いの表現の高まりを実感したり、それぞれの表現のよさを感じ合ったりする姿につなげていきたい。

また、一人一人が明確な根拠を意図として追究に向かえるよう、個々が十分に思考できる場を設けてから協

働学習を取り入れていく。さらに、相互評価によって生まれた新たな課題を確認し合う場を設け、互いの考えのよさを感じたり、共に表現を高めていく喜びを味わわせたりしたい。

#### 【このあとの学び】

鑑賞・歌唱・器楽・音楽づくり、どの学習活動においても、本題材での学びである“曲想の変化のよさ”“楽器の特徴と役割”“曲想と音楽的な工夫とのつながり”を視点にして学習活動に取り組めるようにするため、両領域をつなげる活動や今まで身に付けてきた学びを活用させる活動等を意図的に設定していく。

### 4 評価規準

#### 【知識・技能】

- ① 曲想と、旋律、強弱、リズムなどとの関わりについて理解している。
- ② 思いや意図に合った音楽表現にするために、旋律の動きと楽器の特徴及びパートの役割を生かして演奏する技能を身に付けている。

#### 【思考・判断・表現】

曲想と、旋律、強弱、リズムなどとの関わりが生み出すよさや、旋律の動きと楽器の特徴及びパートの役割の関わりを考え、曲想に合う表現の工夫をし、どのような演奏するかについて思いや意図をもっている。

#### 【主体的に学習に取り組む態度】

曲想やその変化、曲の構成に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

### 5 人権教育との関わり

これまでも、表現の工夫を追究する活動では、自分がどのような表現を目指したいか考えたり、工夫の追究をする中で、どのような工夫が必要かを考えたりする場面を設け、自分なりの視点で追究できるようにしてきた。この題材においても、曲想や旋律の動き、楽器の特徴及びパートの役割との関わりをもとにして、自分の思いや意図をもって追究できるよう、個人で思考する時間を十分に確保する（自己決定）。旋律の動きから曲のポイントを見い出したり、情景を思い浮かべたりして、自らの工夫の根拠や視点を明確にもたせていきたい。

また、これまで自分の考えを伝え合う活動や協働学習や交流によって考えを深めていく活動を取り入れてきた。ここでも、自己決定の場で生まれた自分の考えを伝え合う場や表現の工夫を相互的に評価し合う活動を取り入れ、自分の考えが学習に生かされていく場面を設けていく。そこでは、同じ課題解決に向けて追究するにも、異なった視点をもっていることに気付かせ、その多様な考え一つ一つによさがあることに着目させたり、お互いが誰かにとって考えを学び深めるきっかけになっていると感じ取らせたりする。さらに、これまで同様、一単位授業毎の振り返りに重点を置き、一人一人異なる多様な興味・関心を把握し、個々を尊重できる声かけや活動を取り入れ、一人一人の振り返りを充実させていきたい（自己存在感・共感的人間関係）。

このような学習活動を通して、東中校区「人権教育で育てたい能力・態度の観点」における「互いのよさや違いを認め、多様な価値観を理解する。（知性）」「自他の生命の尊さに気づき、だれにとっても居心地がよい雰囲気を感じることができる。（感性）」「他者の意見や情報を踏まえ、自分の持っている知識や経験を振り返り、公正・公平に判断する。（判断力）」を育てていきたいと考える。

### 6 題材計画および指導方針（評定に用いる評価は囲い文字）

- 教材1 「きらきら星」「ゆかいに歩けば」 全2時間
- 教材2 「キリマンジャロ」 全6時間
- 教材4 「威風堂々」 全2時間

時	過程	学習活動	評価	指導方針
1	つかむ	・「きらきらぼし」の曲想つかみ、それに合う演奏方法を考える。	主	・曲のポイント（主に、はずむ・なめらか）を実際に自分の演奏に出させるための技能を身に付けさせるため、ここでは“曲想に合った演奏にするには？”という教材を通してのめあてを設定し、学習活動に一貫性をもたせる。
2		・「ゆかいに歩けば」の曲想をつかみ、曲想到合う演奏方法を追究する。	思	・曲のポイントと自分の表現の工夫をつなげて思考したり試したりできるよう、「スタッカート」と「レガート」の2つの奏法があることをつかませる。さらに、どのような腕の振り方をしたらそれぞれを表現できるのか追究させることで、今後新しい教材で演奏する際にここでの学びを活用できるようにする。
3	追究する	・「キリマンジャロ」の曲想と情景のつながりをつかみ、どのような表現を目指したいか、考える。	知	・実際の山の名前が題名となっている楽曲を扱うため、曲を聴いたときに情景を浮かばせたい。そこで、楽曲から情景を予想させる活動を取り入れ、情景を想像させる表現を目指す思いにつなげていく。
4		・グループを構成し、思いをもとにめあてを設定し、楽器の構成を考える。	知 思	・これまでの学び（旋律の動きや楽器の特徴やパートの役割）を活用して追究に向かえるよう、それぞれのグループで楽器の構成を考えさせる。
5	本時	・担当楽器の個人追究を行う。	思 主	・この後、曲のポイント（はずむ、なめらか、盛り上がり・曲の山、まとまり）の存在を全体で共有できるよう、楽譜をもとに、自分の担当する旋律の動きを確認しながら練習を進めさせる。
6		・グループ内で工夫の共有を行う。 (アの部分)	思 主	・自分や相手の考えの根拠とそのよさを感じられるよう、自分とは違ったパートがどのような動きをしているのか、めあてに迫るために互いがどのような工夫を考えてきたのかを具体的に共有する場を設ける。
7		・グループ内で工夫の共有を行う。 (イの部分)	思 主	・曲想の変化を効果的に表現することで、情景の変化が生まれることを再度確認したり、表したい情景に近づいたりすることに気付かせるため、模範CDを聴かせ、曲想の変化とそれぞれが考える工夫との関わりを全体で共有する場を設ける。
8		・教材を振り返り、身に付けた力や今後の生かし方をまとめる。	知 主	・曲想の変化が表現できているかを視点に評価し合えるよう、アとイをつなげて演奏し、めあてに沿ったまとめを行う。 ・自分と友だち、共に自ら表現を高めてきた実感をもたせるよう、つなぎ教材をもとにこれまでに新たに身に付けてきた力や学びを生かしてきた過程を振り返る時間を設ける。
9	まとめる	・「威風堂々」の構成や楽器の構成をもとに、作り手の工夫を感じ取って聴く。	知 主	・曲想が変化するよさとその効果に気付かせるため、アとイそれぞれの特徴を、曲のポイントの視点から捉えさせ、これまでの学びを生かして聴けるようにする。
10		・作り手と演奏者の工夫の関わり合いを感じる。	知	・聴き手として、演奏者としての両側面から捉えて題材のまとめを考えられるよう、これまでの学習を振り返る時間を設

	じ取って、楽曲全体を味わって聴く。	<b>思</b>	け、作り手の工夫（楽曲の構成）と演奏者の工夫の関わり合いについて思考させる。
--	-------------------	----------	--

6 本時の学習

(1) ねらい

聴き手に情景を想像させる表現にするために、曲想と旋律の動きや楽器の特徴やパートの役割との関わりをもとにして、思いや意図を膨らませながら、表現の工夫をすることができる。

(2) つなぎ教材

- ①教材名 前教材「こんにちはトランペット」でつかんだ合奏のコツ（掲示物）  
「きらきら星・ゆかいに歩けば」で学んだ演奏法（掲示物）  
「キリマンジャロ」楽譜ワークシート

②目的 表現の工夫の追究をする際の思考ツールとするため

③つなぎ方 個やグループで追究する際に各々が活用できるよう教室に掲示しておく

(3) 展開

学 習 活 動	時	指導上の留意点 (◎学びのつながり ※生徒指導の3機能)
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">         &lt;めあて&gt;          イの情景を聴き手に想像させるには？       </div>	7	◎開始前から音楽を流しておき、児童が入室後、自然と学びに向かえるようにする。 ◎どのような視点で表現の工夫をしていくか見通しをもてるよう、前時に定めためあてをもとに確認させる。 <b>これまで</b> <b>つなぎ教材</b> ・本時の課題を共有できるよう、各々のめあてを持ち寄り、どのような工夫を行っていくのか伝え合わせる。
2 グループで捉えるイの部分に合う演奏の表現の工夫を追究する。 <b>自己決定</b>	8	※考えた工夫が表現できているのか、またはどのようにすれば効果的に表現できるのか、自分で考えたり、試し合ったりして思考させていく。
3 グループになり、互いの考えや工夫点を共有し、再追究する。 <b>共感的人間関係</b>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">         &lt;思考・判断・表現&gt;          曲想と旋律の動きや楽器の特徴やパートの役割との関わりをもとにして、思いや意図を膨らませながら、表現の工夫を追究している。       </div>	10	◎※解決に向けて、パートごとにどのような思いや意図をもって表現の工夫をしてきたのかを伝え合い、演奏する。その際、目指す表現に対して評価し合えるよう、楽譜やつなぎ教材をもとに説明させ、相手に工夫の意図が分かるようにし、聴く視点を焦点化できるようにする。 ※合奏し、各々が考えた工夫が意図通り効果が表れているか、確認する。新たに生まれた課題と成果を共有し合い、グループ内で互いにアドバイスをし合いながら再追究を行う。
4 グループごとに演奏を聴き合う。 <b>自己存在感</b>	10	◎※パートごとにどのような思いや意図をもって表現の工夫をしてきたのかを伝え合い、演奏する。その際、目指す表現に対して評価し合えるよう、目指す情景を伝えた後で、楽譜やつなぎ教材をもとに工夫を説明させたり視点を定めて伝えたりさせることで、それぞれのめあてに沿って聴き合えるようにする。



5 本時の学習を振り返る。

〈まとめ〉予想

イの情景を聴き手に想像させるには、「旋律の動きをもとに、強弱を工夫する」と、相手に伝わる表現ができる。

※「」は各々のめあてに沿った考えや言葉でまとめる。

10

・学びの実感もてるよう、めあてに沿って、自分なりの考えをまとめられるようにする。

◎追究の過程でできたこと・分かったこと・気付いたこと、次どのような視点で活動していきたいか、振り返りをさせる。  
このあと

※これまで、互いの考えを尊重したり頑張りを認め合ったりしたこと、互いの工夫を重ね合わせたことが今の表現につながったことを実感できるような声かけを行い、個々の人権意識を高めていく。

